



ひとが輝く、ふれあいのまち 鳥栖北

まちづくり通信

第120号

令和5年9月1日発行
鳥栖北地区まちづくり推進協議会
事務局

TEL 85-3631

FAX 55-4806



鳥栖山笠が開催されました

7月22日・23日の2日間に渡り、鳥栖山笠が開催されました。今年も快晴に恵まれ、会場は暑すぎるほどの陽気の中、参加者の熱気でさらに鳥栖の夏を盛り上げました。今年子ども神輿も復活し、元気な子ども達の掛け声も響いていました。



本町



中央区

また、毎年秋に開催される佐賀県伝承芸能祭へ鳥栖山笠の出演が決定したという嬉しい発表もありました。これからも継承したい文化です。

また、毎年秋に開催される佐賀県伝承芸能祭へ鳥栖山笠の出演が決定したという嬉しい発表もありました。これからも継承したい文化です。



向門市長が初めて本町の一番山に乗りました。

まち協、スポ協の各会議を開催しました

7月18日と8月18日にスポーツ部長会議、また7月25日にまち協合同専門部会を行いました。今年度は、地区スポーツ大会や5年振りの地区文化祭など、大きなイベントも目白押しです。そのため会議等も多く、各委員さんにも参加していただく機会が重なりますが、鳥栖北地区のためにご尽力いただいているところです。さらに、外出支援事業などの研究課題にも取り組んでいて、鳥栖市がより住みやすいまちになるよう、市とも協議を重ねています。

スポーツ部長会議



合同専門部会

青少年育成事業 夏休み体験教室を開催しました

今年はとても暑さが厳しかったですが、子ども達は元気に教室に参加してくれました。いろんな経験を通して学んでいる姿は、とてもたくましかったです。2学期も運動会など頑張ってね！

木の葉石やアンモナイトの発掘体験をしました。



8月16日
化石教室

8月7日
パン作り教室



枝豆コーンパンを作りました。

マグカップを作りました。

7月27・28日
陶芸教室

8月10日に平和学習「戦時中の生活と鳥栖空襲」を開催する予定でしたが、台風6号の接近に伴って中止しました。大変申し訳ございませんが、振替日は未定です。



鳥栖地区まちづくり推進協議会が作成した「鳥栖良かところカルタ（通称64カルタ）」に札として登場する鳥栖市の名所や名物を紹介するコーナーです！

鳥栖良かところカルタは、今を知り、昔を学ぶ地域学習の身近な教材として、家族や地域での世代間ふれあい活動の一助として作られたものです。



鳥栖良かところカルタ
(通称64カルタ)

今回は「秋葉神社」「姿見の池・腰掛石」「轟木川」「日子神社」です

秋葉神社

秋葉町は市制施行までは今町または新町と呼ばれ、江戸時代の初め今泉から商家が移転してきて、瓜生野本町（現在の本町）と

ともに発展した町です。神社の由緒の詳細は不明ですが、江戸時代後期に大火があり、その後に火伏せの神として勧請されたと伝えられています。筑肥四ヶ国の農作物等の豊凶を占う「お粥祭り」は現在も行われています。



姿見の池・腰掛石

道真公は太宰府に配流され、離れない末子の長寿丸を連れてきて、鳥栖郷にかくまっていました。ある日、道真公が人目を忍んで長寿丸に会いに来ましたが、慕って離さないため、道真公は池に映る自分の姿を描いて「我と思え」と言って去ったそうです。腰掛石は、その時道真公が座ったと伝えられています。



轟木川

鍋島（佐賀）藩と対馬藩との国境、轟木川は対馬藩では西郷川、鍋島藩では「番所川」と呼ばれていました。これは川の西岸の轟木宿の入口に、旅人の荷物を改める番所があったからです。一級河川、筑後川の水系です。



日子神社

慶応2（1597）年に藩主鍋島直茂が英彦山から勧請したといわれています。境内奥の鳥居は元禄13（1700）年刻印の「肥前鳥居」、小さく可愛い「肥前狛犬」も同じ頃の物と言われ、「叶池」も昔の姿のまま残っています。当時、神社手前に制札場があり、様々な生活の取決めを書いた壁書や幕府の布告を掲げていました。伊能忠敬はここを起点に測量し、シーボルトは天体観測して緯度を測ったと日記に残しています。

